

国語 第6学年 準備

自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校国語の授業づくりを手伝う役です。この後に貼る指導案を、私の学級に合わせて書き直してください。最初に、児童の既習事項と今の学習状況、読む・書く・話す・聞く際に必要な配慮、学校の年間計画と使える時間、研究授業で確かめたいこと、使える資料と道具を一項目ずつ質問し、回答を待ってから次へ進んでください。条件がそろったら、次のねらいを保ってください。詩の構成と言葉の響きから、作品に描かれた様子や考えを味わう。目標・評価規準・単元計画・本時の活動を対応させ、本文を省略せず書き直してください。教材本文・台詞・挿絵・教科書固有の問題文は転載しないでください。教材名と公式の総時数は出典を照合し、独自の時間配分は授業案として区別してください。人数や分数を事実のように補わず、回答がない条件は未確認としてください。児童の反応は予想と明記してください。三重の指導案の見出し順を保ち、先生向けの文章に内部IDなどを出さないでください。変更箇所と、その根拠となった回答・出典を最後に示してください。直す対象の指導案を以下に貼ります。

————ここから直す対象の学習指導案————

第6学年 国語科学習指導案

1 単元名「準備」 教材名「準備」

2 単元の目標

詩を音読することができる。〔知識及び技能〕(1)ケ)

詩の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。(C(1)エ)

詩の構成と言葉の響きから、作品に描かれた様子や考えを味わう学習の中で、言葉への関心をもち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①詩を音読している。〔知識及び技能〕(1)ケ)

〔思考・判断・表現〕①「読むこと」において、詩の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C(1)エ)

〔主体的に学習に取り組む態度〕①詩の構成と言葉の響きから、作品に描かれた様子や考えを味わう学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

詩の構成と言葉の響きから、作品に描かれた様子や考えを味わう。この教材では、印象に残った言葉と音読の工夫、その理由の記録を残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。

(2) 児童について（学級の実態を書く）

(3) 指導について

教師は教科書で語のまとまりを示し、響きと意味を確かめる。声を出しにくい児童は間や速さを印で選び、教師の音読で確かめる。想定する難しさは、速さや声量だけを変え、言葉の意味や思い浮かべた様子と結び付けない。評価では、詩の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしているかを、印象に残った言葉と音読の工夫、その理由の記録と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全1時間）

第1次 第1時（本時）：○教材と学習に使う言葉を確認、問いについて今の考えを話す。詩を声に出し、響きや繰り返しから思い浮かべた様子を話す。言葉のまとまりや間を変えて音読し、聞き手が感じた様子と比べて読み方を選ぶ。選んだ言葉と、そこから考えたことの関係を自分の言葉で説明する。異なる考えは根拠を確かめて聞く。 評価：思①（発言・活動中の記録・作成物）

6 本時の指導 (1/1)

(1) 本時の目標

詩の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。(C(1)エ)

(2) 学習過程

【導入】

学習活動：教材と学習に使う言葉を確認、問いについて今の考えを話す。

○「題名と本文の言葉を結ぶと、どんな捉え方ができますか」

【めあて】詩の構成と言葉の響きから、作品に描かれた様子や考えを味わう。

予想される児童の反応：・繰り返す言葉の響きが印象に残る。

指導上の留意点：最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。

【展開】

学習活動：○「題名と本文の言葉を結ぶと、どんな捉え方ができますか」

詩を声に出し、響きや繰り返してから思い浮かべた様子を話す。言葉のまとまりや間を変えて音読し、聞き手が感じた様子と比べて読み方を選ぶ。

選んだ言葉と、そこから考えたことの関係性を自分の言葉で説明する。異なる考えは根拠を確かめて聞く。

予想される児童の反応：・繰り返す言葉の響きが印象に残る。

・間を置くところを変えると様子が違って聞こえる。

指導上の留意点：教師は教科書で語のまとまりを示し、響きと意味を確かめる。声を出しにくい児童は間や速さを印で選び、教師の音読で確かめる。

想定する難しさ：速さや声量だけを変え、言葉の意味や思い浮かべた様子と結び付けない。

評価では、詩の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしているかを、印象に残った言葉と音読の工夫、その理由の記録と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

評価：思① 詩の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(発言・活動中の記録・作成物)

【まとめ】

学習活動：【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。

印象に残った言葉と音読の工夫、その理由の記録を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確かめる。

予想される児童の反応：・間を置くところを変えると様子が違って聞こえる。

指導上の留意点：教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確かめる。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。

評価：態① (最初と最後の記録、見直しの理由)

(3) 板書計画 (縦書き・右から左へ)

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「題名と本文の言葉を結ぶと、どんな捉え方ができますか」。中央は、印象に残った言葉と音読の工夫、その理由の記録に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)

https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

